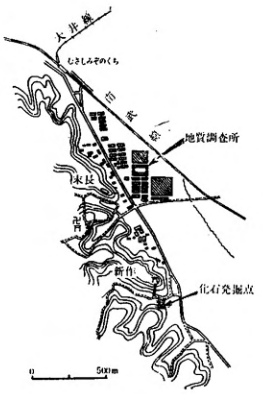


象歯化石発見位置図

発見された象歯化石

地質調査所付近で発掘された象歯化石

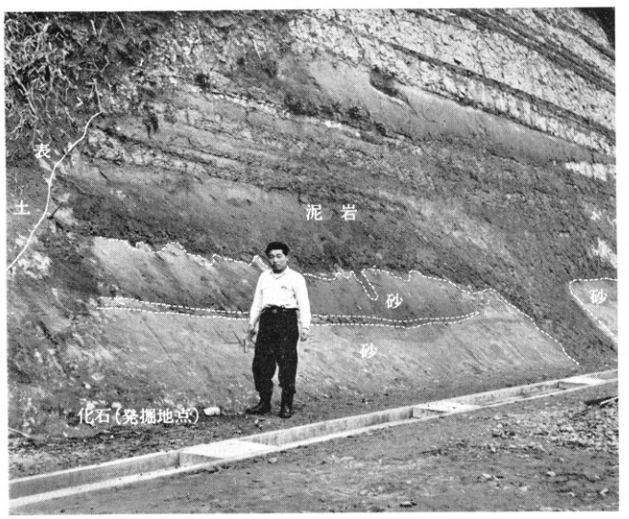
去る3月28日および4月7日　地質調査所にごく近い川崎市新作地内の神奈川県川崎土木出張所工事現場から　相次いで象歯化石　*Parastegodon* cf. *Aurorae* (Matsumoto)　が発掘された.

Parastegodon（アケボノ象）は第三紀鮮新世（約1,000万年～2,000万年前）の地層の中から化石として多く発見され　日本では従来関東　北陸　瀬戸内海沿岸　九州などで見つかっている.　今回発掘されたものはいずれも上顎歯であり　すこぶる保存がよい.

化石を産出した地層は　泥岩と砂岩との不規則な互層からなっており　その砂層の下限から発掘された.

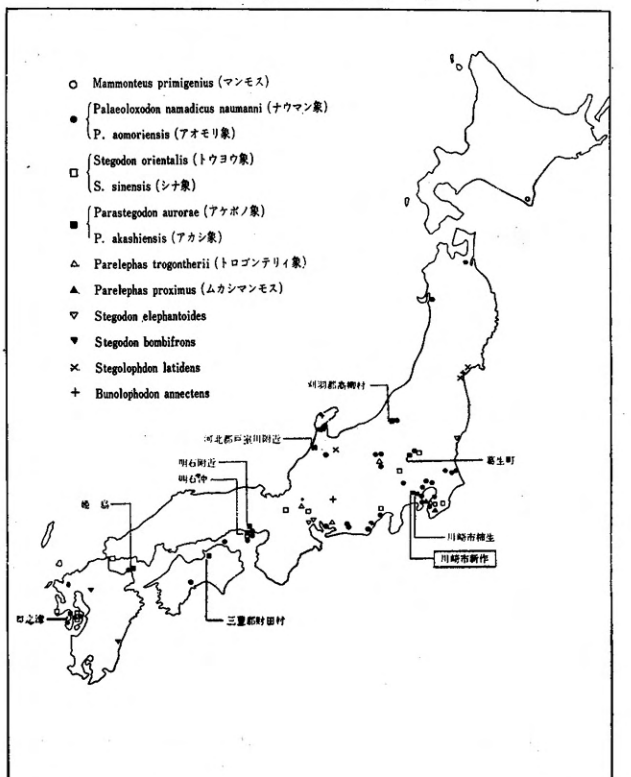
なお　この産地は多摩丘陵が多摩川沖積平野に接する台地の端に位置し　多摩丘陵から三浦半島へかけての一帯の地質は　地質調査所および東京大学河井興三氏等により調査が行われているが　その結果から　今回 *Parastegodon* を産出した層準は　三浦半島の標準層序の小柴層に当るものと考えられていたものである.　ことに当所三梨技官による火砕岩鍵層の追跡・重鉱物分析などによる同定から　小柴層（層厚80～85m）の上部　すなわち三浦半島における小柴層の模式地である円海山付近で　その上限から 20～40m の厚さ約 20m に相当する部分に限定されることがわかっている.

（象化石についての詳細は別途掲載の予定）（地質部）



象歯化石の発掘現場（川崎市新作）

日本産象化石分布図



（高井冬二・1958）